

(学年) 3 学年, (教科・科目) 社会科

協働学習

(単元) 法が保障する基本的人権

(本時のねらい)

共生社会の実現が基本的人権や平等権の保障につながることを確認し、制度や設備の充実に加えて、周囲の気づきと働きかけが重要であることに気づいている。(思考・判断・表現)

(ICT 活用方法)

事例の登場人物が置かれている立場を踏まえた合理的配慮の具体策を個人で考え、各班で話し合い、学級全体に向けて説明するために、授業支援クラウドアプリを用いてグループワークを行い、授業支援クラウドアプリの画面を電子黒板に投影し、発表をする。

従来は1枚のホワイトボードを使い、個人個人が意見を伝えながら班で1つの意見にまとめ、発表を行っていた。本時の学習では事例内容が複雑であることから多様な意見が出現することが予想され、ホワイトボードでまとめるには難しいと思われるため、個人個人が授業支援クラウドアプリに意見を記入することで考えを伝えやすくなり、多様な意見の中からよりよい方策を選出することができる考えた。さらに、班でまとめた方策を学級全体に伝える際にも、電子黒板で投影し、電子ペンを用いて説明することにより、わかりやすい説明ができると考えた。

(本時の展開)

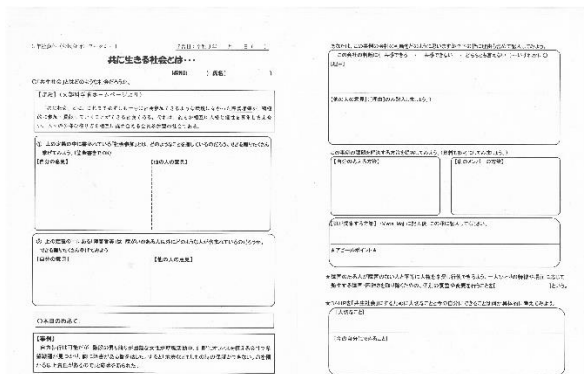
時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・ 前時の振り返りをする。	・ 基本的人権のイメージや権利の実現のために必要なことを思い出させ、本時の学習への動機づけを行う。	
展開 35分	・ 共生社会の定義を確認する。 ・ 事例を通して共生社会の実現に必要なことを考える。	・ 前時の学習と関連づけ、共生社会が目指すべき社会の姿であると気づかせる。 ・ 定義を紹介し、具体化する活動を通して、共生社会がどのような社会を表しているか想像しやすくする。 ・ 登場人物の置かれている様々な立場に立ち、考えることを通じて、共生社会の実現に不可欠な合理的配慮が重	・ 授業支援クラウドアプリに個人の方策を記入し、各班で1つに方策をまとめる。

		要であることに気づかせる。	・授業支援クラウドアプリでまとめた意見を電子黒板に投影し、学級全体に向けて発表する。
まとめ 10分	・本時のまとめをする。	・共生社会の実現は障がいの有無に関わらず、すべての人にとって暮らしやすい社会になると伝える。	

(授業の様子)



(写真1) 一人一台端末活用方法説明



(写真2) 使用したワークシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

授業支援クラウドアプリを班活動や学級全体での発表の際に活用することで、生徒がより意欲的に活動に取り組んでいる様子が見られた。口頭で意見を出し合う場合と比較すると、本時のように各自の意見を記入した上で班員に伝える方がより活発に意見交換が進行しているようであった。あらかじめ出ている意見を踏まえて新たな意見が出されるなど多様な意見が生徒一人ひとりから多数出ている様子があった。一方で、一人一台端末を活用する際には、授業支援クラウドアプリで使用するシートが入っている場所を生徒に伝えるなど操作にあたっての丁寧な説明が不可欠であることを活用する度、実感している。

改善点としては、授業支援クラウドアプリなど一人一台端末を用いるからこそ効果的に実践できる活動方法を考え、授業に取り入れていくことが挙げられる。本時の学習内容は、ICTを活用しない状況でも充分実践が可能なものとなっている。したがって、ICTを活用することにより、生徒の見方や考え方を広げ、広い視野から課題の追究や解決をする力を養うことができる授業計画を立てていくことを今後の展望とする。